

幼保連携型認定こども園 **西神戸 YMCA 保育園** 1 月 えんだより

「一緒に喜んでください。」

(ルカによる福音書 15 章 1~7 節)

新年あけましておめでとうございます。新しい年が、皆様にとりまして、健康で、実り豊かな日々でありますように、心よりお祈りします。今年もどうぞよろしくお祈りします。

さて、クリスマスから年末年始と、お出かけされた方もおられるかと思えます。最近では人が沢山集まる場所で、子ども達が迷子になった経験は少ないかもしれませんが、迷子になった子ども達の不安な思いは「もう会えないのだろうか?」、「どこにいったの?」と目の前が真っ暗になることでしょう。皆さんもそんな経験はございませんか? そんな時に「どうしたの?」と声を掛けられて、やっと再会した時には、心の底から安心したことを覚えています。

今月の聖句の「一緒に喜んでください。」とは、「失ったものを見つけた喜び」を伝える例え話から引用されています。羊飼いが、100 匹の羊の世話をしていました。羊を草地に導き、井戸から水を汲んで飲ませ、夜には囲いの中へ入れて番をしました。ところが、100 匹のうちの 1 匹がいなくなり、羊飼いは見失った 1 匹の羊を見つけ出すまで探し回ります。そして、ようやく見つけ出すと、喜んでその羊を担いで家に帰り、友人や近所の人たちも呼び集めて一緒に喜びました。

失われた者が、たった 1 人であっても、神様は探し出すと言われました。神様の元からいなくなり、世の中から取り残されて、引き離された人であっても、神様は必死に捜し回ります。まだ 99 人が残っているからいい、とは言わないのです。神様は 1 人のことさえ決して諦めることはありません。そしてその 1 人が見つけられた時には、「どこに行っていたの?」とか「迷惑をかけたらだめだ」と言って、叱るのではありません。見つけたら、喜んで担ぎあげ、神様のもとへ連れて帰るのです。

もし羊飼いが、1 匹の羊が失われたことを気にもしないのであれば、残りの 99 匹も安心してはいられません。失われた羊になるのは自分だったからかもしれません。群れについて行くことができないことは、誰にだって起こり得ます。そんな時に、1 匹の羊に心を向けられないような羊飼いの下で生きていくことは、誰にとっても幸せなことではないのではないのでしょうか。

群れからはぐれた羊は、座り込んで動けなくなることがあるそうです。力を失い、あるいは力を奪われた人を担いででも助け出す。それが神様であり天の国とは、そのようなことが行われるところなのです。その意味において、一人一人に関わるとは、目の前の一人の心の奥にある思いを想像し、感じ、その感情と共に伴走していく行為であります。どんな時にも、子ども達や共に居る人々と歩みを続けていくことを願い、毎日祈りの内に保育を進めていきたいと思えます。

年主題 「つながって」～今、わたしを生きる～

1 月	乳児 (0,1,2 歳児)	幼児 (3,4,5 歳児)
月主題	できたよ	取り組む
月の願い	<ul style="list-style-type: none"> 手や指を十分に使って遊ぶ 自分でできるという気持ちや、したいという意欲をもつ 	<ul style="list-style-type: none"> 神さまが与えてくださっている賜物を互いにかして生活する。 健康に過ごすための生活習慣を身につける。 友だちと思いや考えを伝え合いながら遊びを深める。
讃美歌	つくしのよう	きみがすきだつて こども改 132